

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
東京国際福祉専門学校		平成8年2月26日	武田 哲一		〒160-0022 東京都新宿区新宿1-11-7 (電話) 03-3352-9280		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人東京国際学園		昭和60年4月5日	武田 哲一		〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-3-8 (電話) 03-3367-1103		
目的	本校は、学校教育法の規定及び介護福祉業界並びに介護福祉の専門職を志望する者等の要望を踏まえ、職業実践専門課程に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等との連携を密にしながら実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものとする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
教育・社会福祉	社会福祉専門課程		介護福祉科		平成9年文部科学省告示第184号	—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2048	660	900	488	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人		13人	4人		7人	11人	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:—			成績評価	■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 平常点、試験、出席率を勘案し、100～80点A、79～70点B、69～60点C、59点以下F		
長期休み	■夏 季:7月21日～8月31日 ■冬 季:12月26日～1月7日 ■春 季:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業:学則10条に定める授業科目の成績評価に合格し、所定の修業年限以上在籍し、課程を修了した者に卒業証書を授与する。 進級:卒業に準じる。		
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 例はないが、あれば、全学で対応する。			課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 介護施設 ■就職率 ^{※1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100 % ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する平成27年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	介護福祉士		
中途退学の現状	■中途退学者 9名 平成26年4月1日 在学者 34名 平成27年3月31日 在学者 25名 ■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更、経済的理由 ■中退防止のための取組 体調不良の学生、経済的に困窮している学生に対しては、学生及び保護者とあらゆる方法を模索している。なお、授業に遅れがちな学生に対しては、介護福祉科全教員で徹底した個人指導を行い、学力不振による中途退学を未然に防いでいる。			中退率	26 %		
					入学者を含む)		
					卒業者を含む)		
ホームページ	URL: http://www.ti-fukushi.ac.jp						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校は、介護福祉士養成校として所定の必修科目について校内で講義、演習、実習等を行っているが、さらに、専門分野に関して、在宅、施設において支援が必要な高齢者等への介助方法など、介護現場において必要となる知識・技術・技能等を修得するため、知見のある企業等と連携した職業実践教育を行うことを基本方針としている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年8月1日現在

No.	選出区分	名 前	所 属	備考
1	業界団体、職能団体	望月 太敦	東京都介護福祉士会理事	介護
2	業界団体、職能団体	浦尾 和江	東京都介護福祉士会副会長	介護
3	業界団体、職能団体	丸山 由美子	新宿区社会福祉協議会 支援課地域調整担当課長	介護
4	企業・関係施設の役職員	生野 浩平	株式会社アルファ・プロパティマネージメント デイサービス クオリティライフ両国 管理者相談員	介護
5	業界団体、職能団体	村越 いくよ	東京都社会福祉協議会保育士会 会長	子育て
6	業界団体、職能団体	大伴 美砂子	わらしこの会わらしこ第2保育園園長	子育て
7	企業・関係施設の役職員	大久保 光枝	杉並区立荻窪北保育園園長	子育て
8	学校内委員	武田 哲一	学校法人理事長・校長	学校内
9	学校内委員	木村 雅之	福祉担当理事・事務局長	学校内
10	学校内委員	齋藤 千秋	介護福祉科主任	学校内
11	学校内委員	松井 友子	子育て支援学科主任	学校内
12	学校内委員	小林 幸弘	事務局長補佐	学校内
13	学校内委員	宗 國男	教育課程編成委員会事務局担当	学校内

(開催日時)

第1回 平成27年7月22日 18:00～21:00

第2回 平成27年8月4日 18:00～21:00

第3回 平成27年8月26日 18:00～21:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校及び関係業界等が求める育成人材像の育成に適った実習等であること、実習先及びその利用者に迷惑をかけない実習であること、実習中及び実習後、実習生、施設の実習指導者及び本校教員による徹底した実習の振り返り・反省を行うことを基本指針としている。また、コミュニケーション、利用者理解、日常生活の介護技術、実習施設の役割と機能、チームワークと連携、倫理と態度、自己覚知などの習得を実習の目標としている。

科目名	科目概要	連携企業等
介護Ⅰ期実習	利用者がその人らしさを維持しながら生活する状況を理解する。 施設の概要を理解する。 利用者・家族とのコミュニケーションの実際を体験する。 生活支援者としての自己を振り返る。	①練馬中学校デイサービスセンター ②若葉高齢者在宅サービスセンター ③デイサービスセンター南花園 ④埼玉県社会福祉事業団皆光園 ⑤特別養護老人ホーム喜多見ホーム
介護Ⅱ期実習	利用者の心身の状況を把握した基本的な生活支援技術を実践する。 施設で働く職員の職種と役割を知り、チームケアのあり方を理解する。 介護者の視点で根拠ある記録・報告ができる。 利用者の暮らしや今までの生き方を尊重した介護過程の展開を理解する。 生活支援者としての自己を振り返る。	①特別養護老人ホーム上中里つつじ荘 ②特別養護老人ホーム三井陽光苑 ③特別養護老人ホーム喜多見ホーム ④特別養護老人ホーム南陽園 ⑤特別養護老人ホーム菊かおる園

介護Ⅲ期実習	<p>利用者の身体的、精神状態に応じた援助の展開を理解し、実践を学ぶ。 チームケアのあり方を理解し、多職種との連携に必要な課題を理解する。 介護者の視点で利用者の個性を理解し、根拠ある記録・報告ができる。 利用者の暮らしや今までの生き方、自分の願いを尊重しながら介護職としての専門性を自覚した介護過程の展開を理解する。 介護福祉士としての責任を果たす態度や探求心を養う。</p>	<p>①特別養護老人ホーム上中里つづじ園 ②特別養護老人ホーム三井陽光園 ③特別養護老人ホーム喜多見ホーム ④埼玉県社会福祉事業団皆光園 ⑤秋津療育園</p>
介護Ⅳ期実習	<p>介護技術、利用者・家族とのコミュニケーションの取り方、他職種との連携について深く学ぶ。 介護現場での介護職としての役割・責務について自覚する。 施設の運営、地域とのかかわり、行政との連携等について理解する。 訪問介護、訪問入浴介護等在宅介護についてもその役割と責務について理解する。</p>	<p>①救護施設黎明寮 ②練馬中学校デイサービスセンター ③埼玉県社会福祉事業団皆光園 ④福祉医療センター太陽の園 ⑤若葉高齢者在宅サービスセンター</p>

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員研修は、企業等との連携を重視しながら、教員の資質及び能力の向上を図り本校の教育理念に沿った教育を行うのに相応しい教員を養成することを目的とした研修を行う。研修の内容は、教員研修規程第3条に定めたとように、教員が現に担当し、又は、将来担当することが予想される教務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させる内容とする。校長は、教員研修規程第4条に基づき、研修計画を立て教員に研修の機会を与えなければならない。教員は、教員研修規程第5条に基づき、命じられた研修は受講しなければならない。校長は、研修を実施した場合は、研修計画書の改善、職員の活用その他の人事管理に資するため、研修の記録を作成する(教員研修規程第6条)

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年7月1日現在

名 前	所 属
望月 太敦	東京都介護福祉士会 理事
徳堂 泰作	社会福祉法人東京ムツミ会ファロ 施設長
長澤 正雄	社会福祉法人新川中原保育会みたかつくしんぼ保育園 理事長
大伴美砂子	社会福祉法人わらしこの会わらしこ第2保育園 園長
渡邊正二郎	平成24年3月 介護福祉科卒業
俣野 朋子	平成27年3月 子育て支援学科卒業

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp> 本校ホームページに掲載

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp> 本校ホームページに掲載

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程介護福祉科) 平成27年度			1												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立生活支援を理解する。倫理的課題について理解する。	1年前	30	2	○	△		○			○	
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践のために必要な人間関係の理解や他者への情報伝達に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。コミュニケーションの技法、環境について理解する	1年後	30	2	○	△		○			○	
○			社会の理解	福祉専門職として必要な社会全般、社会保障、介護保険、障害者自立支援制度、介護実践関連諸制度、福祉の歴史などを理解する。	1年通	60	4	○			○			○	
○			生活を楽しむⅠ	生活支援者として、生活を楽しむ、利用者と生活を楽しむ知識・技術を育む。俳句、フラダンス、生け花、宴会芸、茶の湯などを学ぶ。	1年前	30	1		○		○			○	
○			生活を楽しむⅡ	施設において、その人らしい生活を支えるための「生活を楽しむ」を計画し、実践、評価し、生きていく意欲について学ぶ。	2年前	30	1	△	○			○	○		
○			統計	基礎的な統計の知識を学び、数値の正しい読み方、情報リテラシー、考える力を身につける。	2年前	30	2	○			○			○	
○			教育	卒業後教育の流れを理解し、介護福祉士に義務付けられた自己研鑽について理解を深める。新人教育、看取り、グループワーク等。	2年後	30	2	○	△			○	○		
○			介護の基本Ⅰ	介護の倫理、意義・役割について介護の歴史や関係法規から学ぶ。さらに、多職種との連携の重要性を理解する。	1年通	60	4	○	△		○			○	
○			介護の基本Ⅱ	利用者の安心・安全な生活のために必要な「人間と生活」、介護福祉の基本原則、日常生活支援の基本、介護福祉の活動の場等学ぶ	1年通	60	4	○	△		○			○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程介護福祉科) 平成27年度			2												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護の基本Ⅲ	介護における安全やチームケア等を学ぶ。事故や感染症対策、介護者自身の健康を守るための健康管理の知識技術の習得。	2年通	60	4	○			○		○		
○			コミュニケーション技術	介護場面における利用者及び家族とのコミュニケーション、職場でのチームのコミュニケーションについて学ぶ。	1年通	60	4	△	○		○		○		
○			生活支援技術Ⅰ	生活支援技術の意義・目的を理解し、移動、身支度、居住環境整備についてグループワーク等の演習を通して学ぶ。	1年前	60	2	△	○		○		○		
○			生活支援技術Ⅱ	食事、入浴、排泄などについてのグループワーク、ロールプレイの演習を通して生活支援技術及び知識を身につける。	1年後	90	3	△	○		○		○		
○			生活支援技術Ⅲ	睡眠、終末期、緊急時、急変時など利用者の心身状況の変化に応じた介護をグループワークなどの演習を通して学ぶ。	2年前	90	3	△	○		○		○		
○			生活支援技術Ⅳ	障害に応じた基本介護技術の知識と実技を学ぶ。喀痰の吸引、ストマー装具の交換、尿道カテーテルの装着、手話の理解など。	2年後	60	2		○		○		○		
○			介護課程Ⅰ	利用者に必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施評価の過程を事例等で学習する。	1年通	90	6	△	○		○		○		
○			介護課程Ⅱ	1年次に学んだ各教科や介護実習の事例から、介護過程の意義及び展開を振り返り、Ⅲ期実習についての実践方法を学ぶ。	2年通	60	6	△	○		○		○		
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習に必要な準備（オリエンテーション、記録の書き方等）、実習目標、信頼関係の大切さ、実習中のリスクマネジメント、実習報告会の意義等学ぶ。	1年通	60	2	△	○		○		○		

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程介護福祉科) 平成27年度				3		授業方法			場所		教員		企業等との連携		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		専任	兼任
必修	選択必修	自由選択													
○			介護総合演習Ⅱ	介護実習に必要な準備（オリエンテーション、記録の書き方等）、実習目標、信頼関係の大切さ、実習中のリスクマネジメント、実習報告会の意義等学ぶ。	2年通	60	4	△	○		○		○		
○			介護Ⅰ期実習	1. 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 2. 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や計画の修正のサイクルである介護過程を展開する。 3. 常に自己を省み、自己の成長に繋げると同時に、専門職業人としての倫理を育む。	1年通	96	3			○		○	○		○
○			介護Ⅱ期実習		1年通	144	5			○		○	○		○
○			介護Ⅲ期実習		2年通	192	6			○		○	○		○
○			介護Ⅳ期実習		2年通	56	2			○		○	○		○
○			発達と老化の理解	人間の一生の中での老化を考え、老化が与える日常生活への影響、社会での立場の変化、やがて迎えるであろう別れに至る気持ちを理解する。	1年通	60	4	○	△		○		○		
○			認知症の理解Ⅰ	老年期におけるこころとからだの変化や生活への影響、最終の別れに至る気持ちを理解し、個別ケアについて考える。	1年通	30	2	○			○		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症の歴史的背景や施策、認知症の現状を理解する。認知症の原因や病気の症状を学び、日常生活への影響、的確なケアについて学ぶ。	1年前	30	2	○			○			○	
○			障害の理解Ⅰ	障害者の暮らしを理解し、自立に向けた生活支援技術を理解する。種別ごとの暮らしを理解し、介護をする上で必要な知識を学ぶ。	1年後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成27年度										4					
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			障害の理解Ⅱ	障害のある人の生活支援の概要となる知識を習得し、利用者のニーズに応じるための一連のサービスが提供できる知識を学ぶ。	2年前	30	2	○			○			○	
○			こころとからだのしくみⅠ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。	1年通	60	4	○			○			○	
○			こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみについて学び、生活支援技術の根拠を考え、応用できる力を身につける。身支度、食事、清潔保持、排泄、睡眠等。	2年通	60	4	○			○			○	
○			学びの技法Ⅰ	人間関係や社会生活を円滑にするために知っておくべき基本的なマナーを身につけ、品格ある人間形成を目指す。	1年前	30	2			○	○				○
○			学びの技法Ⅱ	介護福祉士にとっての記録の重要性を理解し、共通の情報源となる適切な記録が書けるようになるための国語力について学ぶ。	1年前	30	2	△			○				○
○			アジアの今	アジア、特に、インドネシアと中国に視点を当て、地理や民族、くらし、行事、家族等について理解する。多様な国々の介護職との協調性を学ぶ。	2年後	30	1			○	○				○
○			目指せ介護福祉士Ⅰ	介護福祉士として必要な基礎的知識を確認する。苦手科目を克服し自己学習する習慣を身につける。	2年前	30	1			○	○				○
○			目指せ介護福祉士Ⅱ	介護福祉士として必要な知識・技術を総合的に確認する。卒業年時試験に向けて苦手科目を克服し自己学習する習慣を身につける。	2年後	90	3			○	○				○
合計				35科目	2048単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件～学則第10条に定める授業科目の成績評価に合格し、所定の修業年限以上在籍し課程を終了すること。履修方法～全科目を履修のため、全科目を履修、課程終了となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週